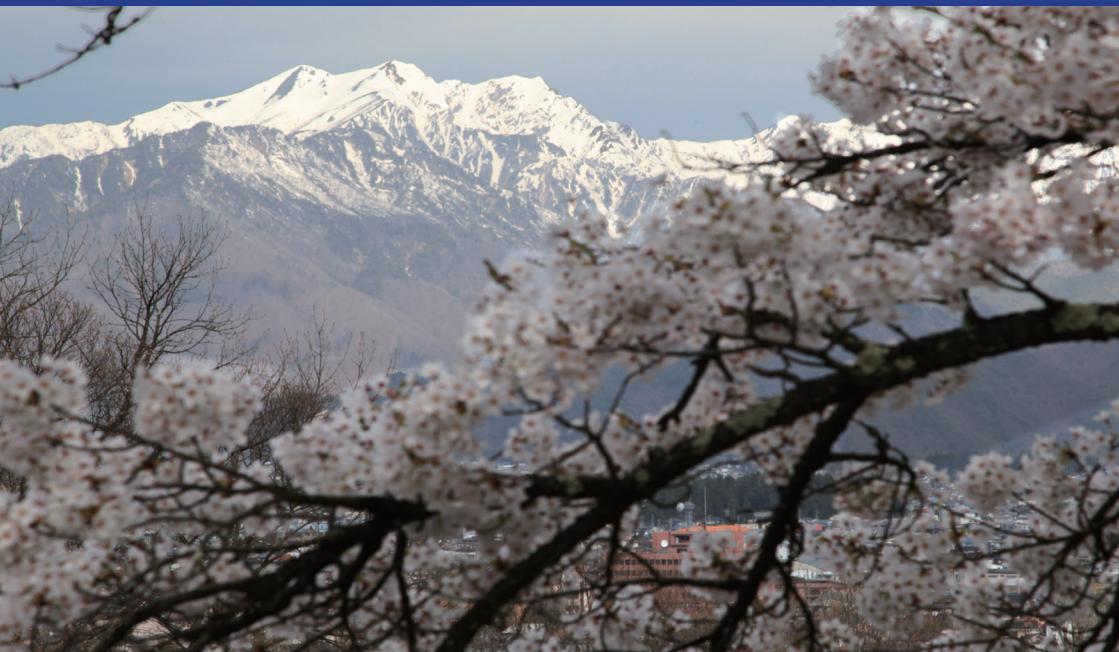




桜月夜
第46号

千曲川地域の人と文化を紡ぐ



NPO法人上田図書館俱楽部（上田情報ライブラリー委託事業）

2022年4月

桜 月夜

清水へ祇園をよぎる桜月夜
いよいよ逢う人みなうつくしき

与謝野晶子



表紙の写真

満開の桜越しに望む残雪に輝く峰々。雪解けが始まり、裾野の上田盆地では春の温もりとともに農作業が本格化する。先人が残したため池にも水が満たされ、偉大な遺産に感謝の念を抱く。

写真・文 矢幡正夫

もくじ

- 4 セカンドライフを楽しむ
川柳に思惟の花を咲かせる 羽毛田辰次さん 伊藤文子
- 8 信濃を旅した文人たち
軽井沢文学散歩（その二） 星野エリア&塩沢エリアを歩く 海野郁
- 14 寄稿
駅前の役立つ図書館を目指して（その二）
- 16 ぶらり散策
五島慶太未来創造館 望月聰子
- 19 寄稿
上田市公文書館と私 井戸芳之
- 24 上田自由大学100周年 「私からみた上田自由大学」（第一回）
- 26 あとがき
- NPO 法人上田図書館俱楽部 理事長 小平千文

川柳に思惟の花を咲かせる

羽毛田辰次さん

一つ明るい色を加え春

芽吹く春呑氣を歳に仕舞い込む

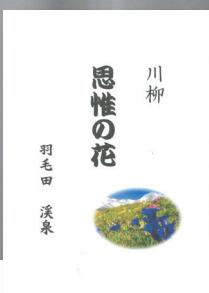
軽いデマ尾鱗をつけてよく彈む

呑み込んだ我慢が利さる喉仏



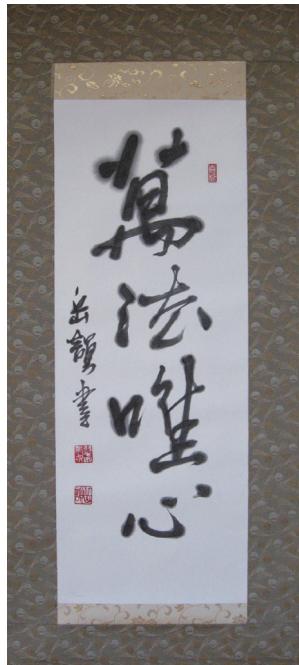
第75回長野県川柳誌上大会で第1位(2021年)

季節の移り変わりをしなやかに
つかみ取り、人間模様を軽やかに
皮肉る。「うがち」「軽み」「おか
しみ」を詠う川柳を作り続けて10
年余り。上田市上田在住の羽毛田
辰次さん(81歳)は、現在3か所
の川柳教室の講師を担う。大会や
句会に投稿することも多く、日ご
ろの思索は豊かな語彙にあふれて
いる。昨年は、200名以上が参
加した第75回長野県川柳誌上大会
で見事第一位に輝いた。「昨年のビッ



「イベンでした」と記念の盾を見させてくれた。雅号は「羽毛田渓泉」。「渓流のように言葉があふれ出るよう」との想いを込めた。

書道歴も長い。実用書道に加えて以来、書道展に出展したり自作の川柳を筆でしたためたりしている。こちらの雅号は「岳韻」。大好きな山と風流を意味する韻を組み合わせた。



「萬法唯心」
心はすべての根源である
羽毛田さん会心の作

好会「金井歩こう会」の会員同士でもある。20人の会員中、羽毛田さんは最高齢ながら歩く速さはトップ。急登も軽い足取りでスイスイ登る。ハアハア言いながら追いかけるが、すぐに背中を見失ってしまう。

羽毛田さんとは日ごろお話する機会は多いが、細かい話はできないまま。これを機会に川柳の極意や作句のコツなどを是非お聞きしたい。うがちやおかしみはどうやつたら表せるか、語彙はどのように

Q 現役時代はどんなお仕事をされていましたか。

A 高校卒業後、国鉄に入社しました。今のJRですね。現場や管理部門などの仕事を経た46歳のとき、国鉄の民営化が決まり、それに携わることになりました。思いがけない大仕事で：いやあ大変でした、初めてのことばかりで。東日本・西日本・東海・北海道・四国・九州の六社をどこで分割するか。三島は問題ないのでですが、東と西と東海をどこで線引きするか、喧々諤々を繰り返しました。他社との交渉、条例や法律の勉強、企

したら増やせるか。また健脚の秘密は？ 月一回金井自治会館で開かれている若草川柳会にお邪魔した。

画書の作成など、やることが山ほどあつて会社に缶詰め状態でした。人生で最も働いた時期で、貴重な体験を積むことができました。

Q どうして川柳を始めようと思いましたか。

A 70歳で退職後、県のシニア大学に入学しました。そこに川柳クラブがあり、入会したのがきっかけです。現役時代、資料作成に当たつて自分の意図が相手先にうまく伝わっているか疑問を抱いたことがあり、言葉の重要さを感じていたことも入会の動機です。

Q 私も川柳に興味があり時々作りますが、ワンパターンになります。

A 名句を作るコツは多読、多作、多捨と言われています。他人の川柳や文章をたくさん読み、自分でたくさん作る。そして良い句を残し他は捨てる。

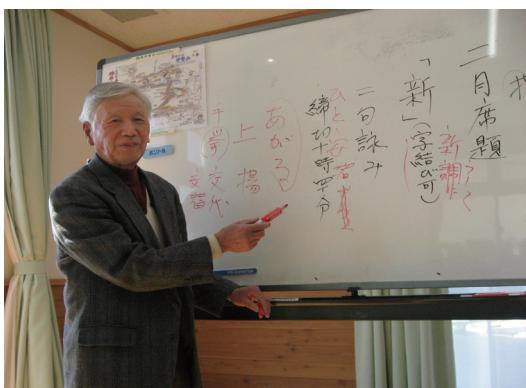
日ごろの心構えとしては物事をよく観察することですね。正面から見るだけでなく、横から見たり後ろから見たり斜めから見たりして多角的に眺めると違つたものが見えてきます。それら見えてきたものに自分の想いを乗せる。そうするとユニークな句ができます。

Q 言われることはよくわかりますが、実践は難しいように思います。特に「自分の想いを乗せる」のはできそうにありません。

A 訓練ですね。日ごろの積み重ねです。できるだけ人と違つた見方をして多面的に想いを巡

らす。難しそうに聞こえますが、川柳は人間の生きざまや心情を表現する人間諷詠ですので、人の仕草や表情を面白がることですよ。

課題がある場合はその言葉の同義語や類語、関連語などを書きだしていく。そういうことを繰り返すよ。



川柳講座

していくと自然に語彙も増えます。

Q 書道についてお聞かせください。作品を見せていただきましたが、書体が独特で読めません。

A 55歳のとき、老後のことを考え始め、ひとりでできる趣味はないかなあと思いついたのが書道です。その頃は関東に住んでいましたので、いろいろな書道教室があり、初めは実用書道を習いました。次第に物足らなくなり、2年後師範講座を受け自由書体を始めました。文字を絵のようにデザインしながら書くのが面白くてのめりこみました。

Q 歩こう会でご一緒していますが、いつも歩く速さに驚いています。何かトレーニングを？

A 10代20代は野球をやつていました。私の時代はスポーツといつたら野球しかありませんでしたからね。その後、小諸勤務のとき登山教室に通い、北アル

プスなどに登りました。今は1ヶ月2時間のウォーキングだけですが体調はいいです。歩数に応じて増えるスマホのドコモポイントも励みになっています。

Q 私も来年は後期高齢者になりますが、羽毛田さんのようにはつらつと過ごしたいと願っています。

A 高齢になつても自主自立を念頭に行動することが大切だと思っています。「もう〇〇歳」ではなく、「まだ〇〇歳」と考え、何ごとも旺盛な好奇心を持つて挑戦する。自分の能力プラス

若干の負荷で健康寿命を延ばしましよう。

若い気を育むサプライ好奇心

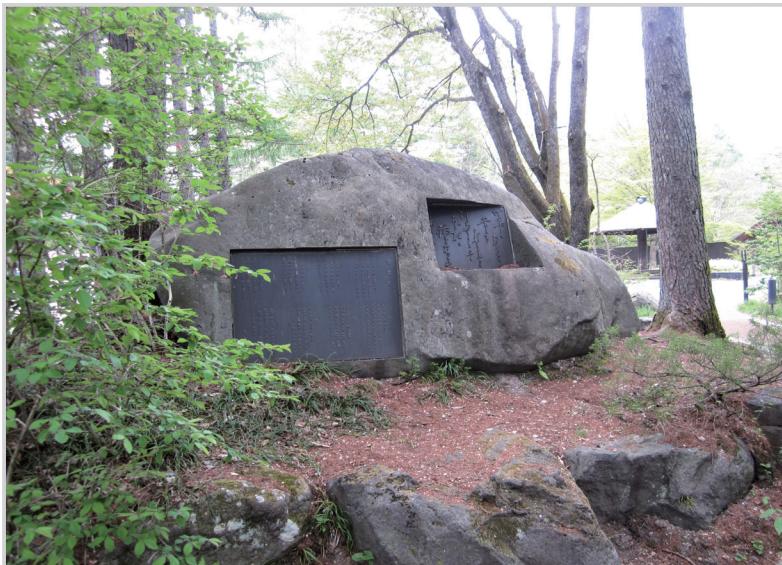
お似合いと鏡が煽る試着室

どんな質問にも味わいのある奥深い言葉が返ってくる。特に「物事を多角的に見る」や「高齢になつても自主自立を念頭に」などは印象深い。上記のインタビューも活字にすると硬い印象を与えてしまうが、実際は機知に富んだ会話がほんとんどで、あつという間の3時間だつた。これらはそのまま羽毛田さんの半生を物語る。

令和4年2月8日訪問

伊藤文子

信濃を旅した文人たち



②北原白秋「落葉松詩碑」

軽井沢文学散步（その二）

星野エリア&塩沢エリアを歩く

軽井沢文学散步の2回目は、中軽井沢の星野エリアからスタートしたいと思います。最初に訪れるのは中軽井沢駅から車で5分、森の中にある「軽井沢高原教会①」です。まずは教会がどのようにして誕生したのかをお話しいたします。

1910（明治43）年、中山道の沓掛宿だった地に沓掛駅（現在の中軽井沢駅）が開通、リゾート地への入口になっていきます。リゾート開発の先駆けになつたのが星野家でした。

岩村田宿の星野嘉助は生

糸商で大成功した人物です。その資産を元に、息子の一代目嘉助は沓掛駅から2キロ付近の広大な原野を手に入れます。その後も山や川を買い足しながら、まず製材所を始めました。原野には次々と植林が行われ、それが現在の星野温泉一帯の樹林につながつていきます。

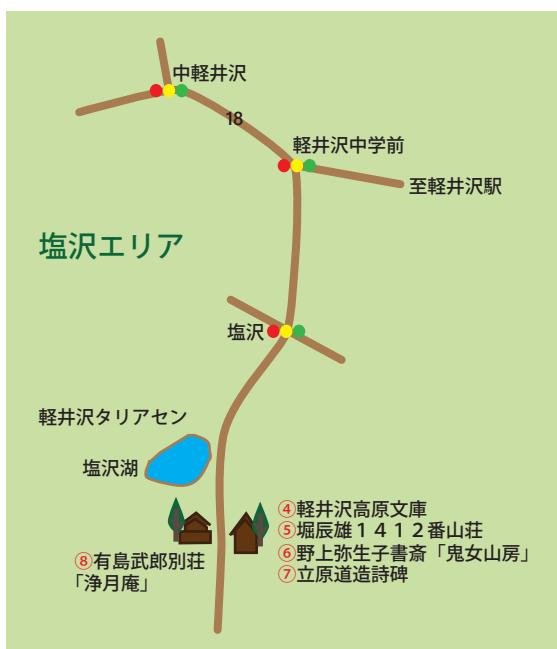
同時に温泉開発にも力を入れ、1914（大正3）年に星野温泉を開業、多くの文化人が訪れるようになります。

8月、星野温泉の材木小屋

星野エリア



塩沢エリア

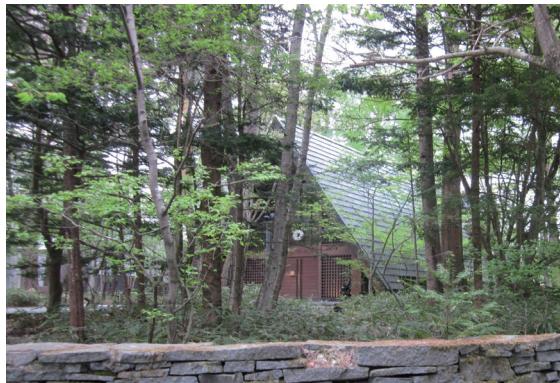


で「芸術教育夏季講習会」が開催されました。山本鼎、北原白秋、島崎藤村や内村鑑三などの講師陣、そして150名もの参加者は「真に豊かな心」を求めて自由に熱く語り合いました。この空間をこよなく愛した内村鑑三は、この場所

を「星野遊学堂」と名づけて布教の場とします。こうして誕生した教会は、戦後になつて軽井沢高原教会と改名、再建されました。教会の正面には、現在も星野遊学堂の名が刻まれています。

は星野温泉敷地内にあつた山本鼎のアトリエに一週間滞在しました。滞在中、朝に夕にカラマツ林を散策、その風景に感動して生まれた詩が「落葉松」です。

星野温泉入口付近にその「落葉松詩碑②」があります。カラマツ



①軽井沢高原教会



③新緑の間を流れる湯川のせせらぎ

です。ハルニレテラスのウッドデッキにはレストランやショッピングが並び、小さな街を形成しています。

星野の森を後にして、次は南軽

井沢の塩沢エリアに向かいましょう。

「軽井沢タリアセン」は大自然の中のリゾート施設で、塩沢湖を中心とし、美術館やローズ・ガーデンなどがある複合施設です。この一角には、木々に囲まれた「軽井沢高原文庫」があります。1985年開館で、現在の館長は作家の加賀乙彦さんです。

この「一世紀余り、避暑地軽井沢は多くの文人たちに愛され、文学作品の舞台となつてきました。その

文学世界に出会えるのが高原文庫で、見どころがいっぱい！ 敷地内には本館の他に「堀辰雄1412番山荘⑤」・野上弥生子書斎「鬼女山房⑥」・「立原道造詩碑⑦」が

あります。軽井沢を詠つた詩はいくつもありますが、中でも「落葉松」は最も有名なものといえるでしょう。流れるような美しい調べです。

詩碑の脇の遊歩道は、湯川③の清流に沿つて「ハルニレテラス」まで続いています。春榆の木々が茂り、芽吹きの頃から初夏そして紅葉の季節と、散策に最適な小径

あり、道路を隔てて有島武郎別荘「淨月庵⑧」が建っています。

本館二階の展示室では、魅力的な企画展を年に4～5回開催。今年は4月から「ことばの森へ—軽井沢を愛した文学者・芸術家たちスペシャル—」展が始まり、夏には「生誕100年 ドナルド・キー



④軽井沢高原文庫



⑤堀辰雄1412番山荘



⑥野上弥生子書斎「鬼女山房」

題」が予定されています。3年前に亡くなつたキーンさんは、生涯を日本文学の研究に捧げ、夏になると軽井沢千ヶ滝にある別荘で執筆に専念していました。

展示室の裏側には林が広がります。カラマツやアカシヤなどの木々が茂り、高原の花々が自生。堀辰雄の山荘はその右奥に移築されて

います。毎夏、軽井沢の別荘を借りて過ごしていた堀夫妻は、昭和16年にこの1412番山荘を購入。16年にこの1412番山荘を購入。簡素な佇まいながら暖炉やテラスがあり、堀お気に入りの山荘でした。この頃、堀はよく京都や奈良方面を旅していて、『大和路・信濃路』や古典を題材にした作品を執筆していました。山荘は公開さ

れていて、中に入つて見学することができます。
高原文庫の入口右側に移築されているのは、野上弥生子の書斎「鬼女山房」です。夏の間、弥生子は北軽井沢大学村の山荘で過ごし、『秀吉と利休』など多くの作品を執筆。茶室造りの書斎には文化人たちが訪れ、謡いや月見に興じ

立原道造の詩碑は広々とした前庭の片隅に立っています。詩人、そして建築家だった立原。製図台を型どつたユニークな碑は大学の後輩・磯崎新の設計で、立原自筆の「のちのおもひに」の一節が刻まれました。心のふるさと信濃追分

有島武郎の別荘「浄月庵」は、



⑦立原道造詩碑(左側が詩碑)



⑧有島武郎別荘「浄月庵」



「一房の葡萄」カフェテラス

高原文庫と道を隔てて移築されています。杉皮張りの別荘は、裕福だったという有島家らしい趣の造りです。有島は夏になると家族と過ごし、妻を亡くした直後に滞在した際は『信濃日記』を執筆、上山田や別所温泉を訪れたことなどを綴っています。現在、2階は有島武郎記念室として開放、山荘風な室内や貴重な資料などを見ることができます。

文学散歩の最後は、1階のライブラリーカフェ「一房の葡萄」へ。

カフェの名は、有島が自ら挿画装幀した童話集『一房の葡萄』にちなんでいます。店内にはクラシカルな雰囲気が漂い、その中で味わうコーヒーは格別。また、カフェテラスで軽井沢の風に吹かれながら文学散歩の余韻に浸る。そんな贅沢な時間はいかがでしよう。



山荘風の洋間

今回は明治以降の軽井沢の変遷に触れながら、文人たちの足跡を辿つてみました。興味を持っていただけたらしいです。次回は、宿場町の面影を色濃く残す信濃追分を歩きたいと思います。

海野 郁

Webサイト

軽井沢観光協会公式ホームページ・軽井沢の文化

<https://karuizawa-kankokyokai.jp/knowledge/289/>

軽井沢高原教会

<https://www.karuizawachurch.org/>

軽井沢高原文庫

<http://kogenbunko.jp/>

(高原文庫では企画展の他、さまざまなイベントを開催しています)

寄稿 駅前の役立つ図書館を目指して（二）

前上田情報ライブラリー館長 柳原美和子

今号では当館の現状と課題について触れたいと思います。

当館の特長は、開館時の斬新さが当館のネーミングにも表れています。図書館という枠組に捉われない事業の展開と設置機器にあります。

まず、図書館でありながらまるで公民館のような内容の講座、催し等を多く実施してきました。コンセプトの暮らしだとビジネス支援に関連した仕事の基本セミナー、女性のキャリアアップを目的とした講座などを行ってきました。また、フラワーアレンジメント講座やヨ

ガ教室など、暮らしの充実を目的とした活動も実施してきました。

次に、様々な用途のパソコンやデータベースの設置により、パソコン初心者向けのサポートや体系的にパソコンを学ぶ教室の開催をしています。

これらの企画は当館の職員のみで実施できるものではありませんので、市民協働実現のため、上田図書館俱楽部への委託や共催事業としての実施もあります。

このように開館から新しい図書館像を掲げ、活力ある活動を実施してきました。ところが、時間の経過とともに様々な問題が生じています。

まず、機器の老朽化と利用者のニーズの変化です。手軽なノートパソコン、タブレット、スマートフォンの普及により、設置パソコンを利用する必要性の減少です。利用目的を調査、ビジネスに限定していますが、実際には常連の方の利用が多く、設置目的どおりの利用がされているのかと疑問に感じることもあります。

次に催しものの多さです。最近、公民館のみならず、ビジネス関連や女性問題等を扱う部署とも当館のコンセプトや講師の重複があり、図書館で行う意義を見失うことも

あります。図書館機能、公民館機能、パソコン機器の充実、証明書の交付等、多岐にわたる業務をどうに行うことができるのかと考えたとき、一番後回しになつてきたのは図書館本来業務だったようになります。

更に、定期異動してくる正規職員のスキル不足もあると思います。通常の行政職員では司書資格や講座主催経験はない場合のほうが多く、実施することに困難がありま

す。通常の事務とは違い、会計年度任用職員が従事することには限度があり、業務全体のレベルを保つことは大変困難です。

現在、県内市町村と県による「協働電子図書館」サービス導入が検討されています。近年の学校教育の情報化が新型コロナウイルス感染症の影響で加速され、また読書バリアフリー法の成立により、これら3つの課題解決の糸口になります。

協働で行うことにより費用面での効率化、全県民が一律に同じサービスを受けられることなどがメリットとして挙げられます。コロナ感染症に限らず、災害等の際も影響を受けずサービスの提供を受けられること、障がい者や地理的条件等で来館しにくい等、様々な理由で図書館の利用や読書が困難な方にも提供できる

サービスと考えられます。市内図書館もこのサービスの導入に向け検討を重ねております。

開館から18年、活動内容のマンネリ化、他部署との競合等、開館時と比較しライブラリーの存在意義が小さくなつていることを痛感します。令和6年4月の開館20周年に向け、今一度原点に立ち返り、時代にあつた「上田情報ライブラリー」のありようを模索する必要があると思います。

更に、市内図書館全体が地域、ニーズ、時代の流れ等に柔軟に対応し、利用者の意見を取り入れながら存在していくことが図書館の使命だと考えます。



生家をイメージした五島慶太未来創造館
手前はスporteク車輪

2020年、青木村に「五島慶太未来創造館」が開館しました。五島慶太は東急グループの礎を築いた実業家であるとともに、教育にも力を注ぎ、生涯を通じて「ふるさと信州」との関わりを持ち続けた人物だったとのこと。その人物像を詳しく知りたいと、未来創造館を訪れてみました。外観は生家をイメージしたものだそうです。

建物の入口付近には、東急電鉄から寄贈されたという2基のスporteク車輪が置かれ、来館者の目を引いています。館内に入ると、まず五島慶太のパネル写真がお出迎え！ かっぷくが良く、笑顔から温厚さがにじみでています。

ここからは、慶太ゆかりの愛用品、映像資料、模型やジオラマなどを見ながら、その軌跡やエピソードなどを紹介したいと思います。

五島慶太（旧姓小林 1882-1959）は、青木村で農業を営む小林家の二男として生まれました。家計は苦しかったが、志が高かった慶太は父を説得、上田中学校に入学します。往復24キロの道程を歩いて通ったというから驚きです。その後は松本中学に進学、卒業後は家計を支えるため青木村の小学校の代用教員として働きだします。しかし、さらに上を目指した慶太は一橋大学を受験。結果は不合格に……。それでもあきらめることなく、東京高等師範



創造館入り口の五島慶太のパネル写真

大学を卒業した慶太は、官僚を経て鉄道会社に就職。その後、実業家に転身すると、さまざまな困難を乗り越え、東急グループの礎を築き上げたのです。

慶太はまた、「事業はまったく人である」と語り、人材の育成にも力を尽くしました。新入社員のために設立した寄宿舎「慎独寮」の名前は、愛読していた中国の書籍からとり、「人が見ていなくても、心を正しく、行いを慎む」という意味なのだと。また、教養ある自立した女性を育てようと、東横商業女学校を開校。そこには慶太ならではの教育観が反映されていて、最新のタイプライターなどが備えられていました。慶太が発起人となった長野県出身の学生のための「千曲寮」は、創立から100年を経た現在も存続しています。

未来創造館には、慶太が手掛けた商業施設のジオラマも展示さ



渋谷駅のジオラマ

学校を経て東京帝国大学（現東京大学）に合格を果たしました。

慶太の何事にもくじけない精神は、信仰深い両親の教えから培われたようです。また、師範学校時代の校長・嘉納治五郎から大きな影響を受け、「なあに、このくらいのこと！」の精神は慶太の心にしっかりと刻み込まれて、生き抜く力になりました。

れていて、見どころのひとつになっています。戦後、東京に初めて設置された五島プラネタリウムや、東急文化会館、東横百貨店屋上の遊具など、懐かしい渋谷の風景が再現されています。

そして、なじみ深い別

所駅のジオラマも！ 上田電鉄の前身となる上田温泉電軌青木線・川西線の開通の折は、当時鉄道院で役人として働いていた慶太が技師を派遣するなど多大な支援を行いました。また、飯山線の危機を救い、長野県内の交通網のあり方を構想したり、リゾート開発を進めたりと、さまざまな事業に関わり続けました。

文化人としての顔も併せ持ち、茶の湯や書をたしなみ、人類の宝を守ろうと美術品の収集にも力を尽くしました。展示されている掛け軸は見事な書体で、故郷を詠ったものなど温かい人柄がじみ出ています。また、東京世田谷にある「五島美術館」には、国宝「源氏物語絵巻」など数々のコレクションが収められています。

「五島慶太未来創造館」のコンセプトは「偉大な先

人・五島慶太の軌跡を振り返るとともに、その想いをこれから時代を生きる人々につなげていきたい」です。皆さまも是非一度訪れて、この偉大な先人にふれてみてはいかがでしょうか。

また、未来創造館は、「義民資料展示室」「栗林一石路資料展示室」「古代遺跡発掘土器展示室」が内部でつながっていて、実質的に一体の文化施設となっています。どうぞ、併せてご覧ください。

2022年1月5日訪問 望月聰子



別所駅のジオラマ



Webサイト

青木村 五島慶太未来創造館

<http://www.vill.aoki.nagano.jp/assoc/see/miraisouzoukan.html>

上田市公文書館と私

井戸芳之



上田市公文書館外観

この寄稿でこれまで上田市立美術館、上田市立博物館、上田市立上田図書館のことを紹介しました。四回目の今回は上田市公文書館のことを書きます。

上田市公文書館は、令和元年九月一日に丸子郷土博物館と併設する形で開館しました。それまで過去の公文書は、博物館、図書館、各地域自治センターに分散して保存されてきましたが、それらを公文書館に集約して一元的な保存管理を行うことになりました。

収蔵資料点数は一万四千六百四十四点です。内訳は、旧役場文書が一万四千百四十六点で最も多く大半を占め、次は写真で四百九十五点、残りは古書と絵図で三点です。(いずれも令和三年度末の集計)

来館者数と閲覧点数は、令和元年度は三百九十八人、百十七点、二年度は四百四十四人、百十三点です。

公文書館は、歴史資料として重要な公文書（歴史公文書）などを評価・選別し、市民共通の財産として後世に残すとともに、その利活用を図ることを目的としています。具体的には「歴史的公文書等の移管、収集、受け入れ」「収蔵公文書等所蔵資料の保存及び利用」「普及・啓発」「調査・研究」の四つの事業を行っています。

このうちの「普及・啓発」に関する事業として、公文書館では、収蔵資料を広く知つてもらうための「収蔵資料企画展」を随時一階ロビーで開催しています。

現在（令和四年四月）は、企画展「改訂鎮台条例」から上田市民会館の建設まで」を五月十五日まで開催中です。明治時代の旧神畠村、城下村、川辺村の役場が保管していた文書や、市営飛行場、市営野球場、市民会館、市立上田商工学校（上田千曲高等学校の前身）の設立に関する文書を展示しています。

最近の展示を振り返ると、昨

年三月からは「上田町から上田市へ」、昨年十月から「上田町条例制定から信越線の電化まで」と、上田市役場が保管していた文書や、市営飛行場、市営野球場、市民会館、市立上田商工学校（上田千曲高等学校の前身）の設立に関する文書を展示しています。

公文書館の収蔵資料や事業は、市民の暮らしとは短期的にはあまり関わりを感じられないかもしれません。しかし、長期的にはたいへん重要な意味を持つものが多く述べられています。

例え、百年前のスペイン風邪流行時の公的な記録は、現在の新型コロナウイルス感染症へ

と、上田市の誕生前からの歴史を資料で追う展示がありました。また、新型コロナウイルスが本格的に感染を広げ始めた第三波の一昨年十二月からは「大正時代の上田とスペイン風邪の流行」、東京オリンピックが開催された昨年七月からは「明治維新から東京オリンピックへ」と、現在の出来事と関連する企画も開催しています。

さて、ここからは公文書館と私の関りについて書きます。

私は、上田市で公文書館の開設を検討している時から、どんな施設になるのかな？と注目していました。

長野県内では平成十年に松本市に、平成十九年には長野市に、それぞれ公文書館が開設されま

の対応の参考となるはずです。地震や水害などの災害時の記録も同様に、予防に役立てることができます。また、行政の決定にはその後長期間にわたって影響するものが多くあります。後年になつてその決定の是非を検証するためには記録の保存が欠かせないのです。

した。県のデジタルアーカイブに関する会合などで、その方にお会いすることがあり、上田市にも公文書館が必要だと思つていたからです。

上田市の公文書館が開館してしばらく経つたころに見学に行きました。閲覧室や資料収蔵室の案内をはじめ、ロビーの企画展示の展示資料の解説もしていただきました。

その時の企画展は「開館記念展示」として、選りすぐりの文書十点を展示していました。その中で「上田町への課税の許可通知」が特に印象に残っています。

これは上田町が独自に課税することを許可する通知です。明治三十二年に内務省から発行さ



「上田町への課税の許可通知」の署名

少し前に私は、西郷従道が登場する小説「熱源／川越宗一著」や、松方幸次郎（松方正義の子）を描いた「美しき愚かものたちのタブロー／原田マハ著」を読んでいたので、展示された文書

ここからは、上田市公文書館とのお仕事の紹介をします。ウェブサイトと映像制作の事業が一つずつあります。

上田市公文書館目録検索システム
<https://kobunshokan.city.ueda.nagano.jp>

インターネットで公開している公文書館の収蔵資料を検索できるウェブサイトです。キーワード検索のほか、「旧役場文書」「市役所文書」などの分類や期間、旧町村名で検索することができます。

閲覧の手順としては、このシ

ステムで検索して表示された請求番号を使って閲覧請求をします。

現在は、公文書館の閲覧室でしか資料を閲覧できませんが、資料のデジタル化を可能なものから進めて、このウェブサイトでも閲覧できるようにしたいと思っています。



「上田市公文書館目録検索システム」の画面



「第七回上田市公文書館所蔵品企画展」の解説映像

企画展解説映像

「第七回 明治維新から東京オリンピックへ」

<https://youtu.be/Ets9vx75bhM>

「第八回 上田町条例制定から信越線の電化まで」

<https://youtu.be/I2ug7U19WOg>

公文書館の一階ロビーで、同時に開催した企画展の展示資料を、専門事務員が解説した映像です。

実物展示では見ていただける人数が限られることから、映像化していくでも誰でも見られるようにしたもの。こちらも順次追加していくかと思っています。

最後に、今回のテーマの「公文書館」に関連して本を一冊ご紹介したいと思います。（実は私は本を読むのと同じくらい、誰かに本を薦めるのが好きです）

閉された言論空間／（江藤淳著 文藝春秋）

作家の江藤淳さんが、米国国立公文書館などの資料を涉獵し

てまとめた、四十年ほど前に発表された論説。内容は、太平洋戦争後の占領下の日本に対する米国が行つた「検閲」の詳細とその影響です。

著者は米国公文書館で、G.H.Qの検閲項目のリストを発見し、この資料によつて当時の検閲の実態が詳らかになりました。

正直なところ著者の論旨には、私は賛同しかねることが多いのですが、大変な労力をかけて歴史研究の一次資料を発掘し、世に公開した功績は大だと思ひます。

余談になりますが、実は確かめたいことがあつて、私も著者が発見した文書をぜひ見たいと思つて探しました。

どの資料なのかを特定するの



江藤淳「閉された言論空間」
文藝春秋

に苦労しましたが、米国公文書館の一連の「日本占領関係資料」が、日本の国立国会図書館にマイクロフィルムで保管してあることが分かり、それを閲覧して見つけることができました。

その情報を基に、米国公文書館に資料請求をすると、なんと電子メールで PDF ファイルが送られてきました。江藤淳さんの時代では考えられない便利な時代になりました。

☆筆者ご挨拶

こんにちは。私は井戸芳之と申します。平成八年の暮れに東京都から上田市に引っ越し越してきました。それ以来二十四年あまり上田市マルチメディア情報センターに勤めています。趣味は美術鑑賞と読書です。

私はここに、上田市の公共施設のことを書いています。その理由は、私が常々「公共施設が私の暮らしを豊かにしてくれている」と実感している、それを知つていただきたいからです。上田市に来る前には住んでいたのはどこも大都市で、その頃には公共施設にこんな想いを感じることはありませんでした。

上田自由大学100周年 「私からみた上田自由大学」

NPO法人上田図書館俱楽部
理事長 小平千文

（第二回）

信濃自由大学の名称

発足当時の正式名称は前号で触れたように「信濃自由大学」でした。民間人が立ち上げた教育機関であるこの大学の名称は、どのような思いのもとに付けられたのか、2回目の話はそこからはじめたいと思います。

信濃自由大学の誕生を主導した山越が直接名称のことについて触れている史料にはあたれていませんが、土田杏村の小論と猪坂直一の回想文、自由大学の人気講師であった高倉テルの「自由大学運動の経過とその意義」（注1）がその一端に触れているので、それから紹介していくことにしましょう。

自由大雑誌

第一卷第一號

大正四十一年一月發行

自由大学へ	土田杏村
忘られたる花譜	新明正道
藝術研究会	高倉テル
農村教育調査会の決議	杏
上田自由大学回顧	猪坂直一
パンフレット	（二三）
貴重な本作	（二三）
大學生報	（二三）
講演消息	（二三）
新刊紹介	（二三）

会所行發 大自由學雑誌

『自由大学雑誌』表紙

土田は、1925年1月10日創刊した自由大学協会（注2）会誌『自由大学雑誌』第一巻第一号に、巻頭言ともなる「自由大学へ」の小論を寄せています。ここに「信濃自由大学」の特徴と「信濃自由大学」と名付けられるまでの様子が記されています。

「日本の自由大学は何処の国のか教育機関の模倣でも無い」「此れど類似の教育機関が世界の何処かに存在する事を知らぬ」「自由大学は全く僕達会員の要求の中から出たものだ。其の組織、方法など、此れ亦同じく僕達の事情に相応するやう、僕達によつて案出せられたものだ。其れば、何処の国からの借り物でも無い」「手製の国産品である」。『自由大学』の名称も亦上田の諸君の案出したもので、僕などの造語では無い。此んな名のものが外国にあるかどうかを僕は知らない」と、認めていきます。上田自由大学は、「何処の国からの借り物でも無い手製の国産品」で、自由大学の名称は、上田の諸君（山越、金井、猪坂）がつけたものだと述べています。ただ、なぜ「自由」なのか、また「自由大学」なのかについての言及はあります。

ません。

猪坂は『回想・枯れた二枝』信濃黎明会と上田自由大学』（上田市民文化懇話会 1967 年）のなかで、「自由大学は土田氏の指導下に生まれた。その肉体はわれらが作つたが、精神は土田氏によつて与えられた」と言うことができようと述べています。

「信濃」と冠したことについては、「信濃黎明会に倣つた」と記しています。「自由」と「大学」については、「その頃長野県では自由解放のあらしが渦巻き、自由教育、自由画、自由詩などの言葉が流行化そうとしていた。われらもこれに同調し、『自由講座』という名を考えたが、山越君はこの講座は大学と程度の学問をやるのだから大学とつける方がよい言ひ、けつきよく信濃自由大学と名づけたのである」と記しています。「自由」について

は大正デモクラシーがもたらした

「自由」が「流行化そうとしている」ことにあやかりつけたようだ

が、なぜ「自由」かについては触れていません。

その自由に言及しているのが『教

育』（1937 年 9 月）に寄せた

高倉の前掲論文です。「自由大学

の名は、古くタルド（ジャン＝ガ

ブリエル・タルド、フランスの社会

学者・社会心理学者 1843-1904）の『社会法則』の序文

に、『社会科学自由大学』の名が

出ているが、それらの諸君（金井、山越、猪坂）は、タルドの名さえ

知らない人たちであつた。それら

の諸君は、『自分たちの欲する講

義を自分たちの欲する講師から聞く』自由な大学という意味で、率

直に『自由大学』と呼んだ」と述べています。

学問の中央集権的傾向を打破し、地方一般の民衆が其産業に従事しつゝ、自由に大学教育を受くる機会を得んが為に、総合長期の講座

「信濃自由大学趣意書」からみた
上田自由大学の特徴

猪坂がいう「上田自由大学の総

てはこれで十分わかる」（注 3）

として講座開始前に発表された

1921 年 7 月付の土田起草によ

る「信濃自由大学趣意書」は、「設立の趣旨」、「組織」（1 講座の種

類 2 講座の時期 3 自学自習

4 講座の年限 5 短期講習）、「経

費」、「聴講生」、「役員」、「計画」

の 6 項目から成り立っています。

自由大学の特徴がもつともよく表

現されているのが「設立の趣旨」

です。全文を紹介しながら、この

大学の特徴について見ていきましょ

う。

を開き、主として文化学的研究を為し、何人にも公開する事を目的と致しますが、從来の夏期講習等に於ける如く断片短期的研究となる事無く統一連續的研究に努め、且つ開講時以外に於ける会員の自学自習の指導にも関与する事を努めます。

「学問の中央集権的傾向を打破し」云々と書いた土田には、次のような思いがありました。人間として生きるために自己教育をはかり自律することでなくてはならない。そのためには、終生働きながら大学教育を学べる環境が必要だ。ところが、学問を学ぶところの学校教育は、資力の違いなどから大学にまですべての人に開放されていない教育の不平等（学問の中央集権的傾向）がある。それが社会的不平等の根本原因となつてい

る。この状態をなくすために「学問を民衆のものとしたいのだ。学校を空気の如く、水の如く我々の周囲に豊かにしたいのだ」「僕達は学校を救はう」「死にかけたものに生命を吹き込むのだ」（「自由大学」）との思いからでした。

上田自由大学が求めた教育は、他者から拘束されない自立していく人間として生きる一生の教育を身に着けるための「総合長期の講座」でした。求めた教育は、次のようないい講座ではないことを念頭においてのものでした。

上田自由大学が誕生する前後に長野県では、信濃通俗大学会によつて北安曇郡大町の木崎湖畔で行われていた木崎湖畔夏期大学（1917・8・1開講）や軽井沢夏期大学（1919・7・22開講）、戸隠夏期大学（1921・8・1開講）などが「通俗教育」の名のもとに開かれていきました。講座は、「断片短期的」という「一場の講演の並列か特殊の学問の講習会」（猪坂『前掲書』）というように、断片的であり、連續的でなく、系統的なものではなかつたのです。自由大学が追究した講習は、そのような講習とは正反対のもので「総合長期」にわたる連續的、系統的のものでした。具体的には、農閑期に当たる10月から翌年の4月までの7か月間を1講座とし、そこに6講座をもち、1講座は7日間ないし10日間行うことを3、4年かけて行うというものでした。そこで学ぶ「文化学的研究」の講座は、哲学・哲學史・倫理学・美学・社会学・心理学・宗教学・教育学・文学概論・法学・経済学・社会政策の12分野にわたるものでした。これが自由大学の目玉ともなる特徴の一つ

でした。その講座のなかでも「哲学史、哲学概論、法律哲学、宗教学という風に哲学色が甚だ強い」のは、自由大学に学ぶ「学習者として」「先づ哲学をマスターし、物の考え方を基本的な認識から出発せねばならぬ」と強く主張している金井との相談のなかから設定されたのではないか、と猪坂は述べています（注4）。

2つめは、講座期間は、前述のとおり農閑期にあてられました。そして講義時間は午後6時から10時までされました。講座の期間と時間から聴講生は主として農民が対象にされていました。いえます。第2期（1922・10～23・4）聴講者職業別数の統計によれば、聴講（長野大学編『上田自由大学とその周辺』郷土出版社2006年29頁より一部掲載）者272人のうち農民

が128人の47%、次に教員31人の30%、官吏21人の8%となっています。高倉テルは、前掲書で「自由大學は、事実上農民の教養機関であった」とまで言い切っています。

3つめは、「自学自習の尊重」（自己教育）でした。

4つめは、聴講生は「講義を理解し得る各自の自信に信頼して、聴講生の資格に一切の制限を置かず、且つ男たると女たるとを問ひません」とする性別の垣根をはずし、女性に学びへの門戸を開いたことです。これにより文学芸者として知られた春奴や静枝の他、清水ちよ、児玉いし（旧姓山越）、永井一子、花岡たかよ、半田かほる、山越いし、工

上田自由大学

学期	開講年月日	日数	講師	講座	聴講者数	会場
1	1921.11. 1	7日間	恒藤 恭	法律哲学	56名	上田市横町神職合議所
	1921.12. 1	6日間	タカクラ・テル	文学論	68名	上田市横町神職合議所
	1922. 1.22	7日間	出 隆	哲学史	38名	上田市横町神職合議所
	1922. 2.14	4日間	土田 杏村	哲学概論	58名	上田市横町神職合議所
	1922. 3.26	2日間	世良 寿男	倫理学	35名	上田市横町神職合議所
	1922. 4. 2	5日間	大脇 義一	心理学	31名	上田市横町神職合議所
2	1922.10.14	5日間	土田 杏村	哲学概論	44名	上田市横町神職合議所
	1922.11. 1	5日間	恒藤 恭	法律哲学	47名	県蚕業取締所上田支所
	1922.12. 5	5日間	タカクラ・テル	文学論	63名	県蚕業取締所上田支所
	1923. 2. 5	5日間	出 隆	哲学史	50名	県蚕業取締所上田支所
	1923. 3. 9	5日間	山口正太郎	経済学	34名	県蚕業取締所上田支所
	1923. 4.11	5日間	佐野 勝也	宗教学	34名	県蚕業取締所上田支所

藤れつ、深町（旧姓三井）ひろこなどの聴講生がみられました。うち清水ちよは、『さゝやき』を遺した清水澄子の母で、女性の中ではほぼ毎回出席した一番の出席者でした。

5つめは、通俗教育協会による夏期大学のように政府・財閥、地元などの支援によることなく聴講料と寄付金による、いわば手弁当による運営でした。

6つめは、講座の自由選択ができたことです。聴講料は一学期（6回の講義）15円。希望する講座の1講座1回分は4円でした。これは、聞きたい講座は4円支払えば聞くことができましたが、聞きたくない講座は聴講料を支払う必要はなかつたからです。

自学自習のもと働きながら必要

自由大学のひろがり

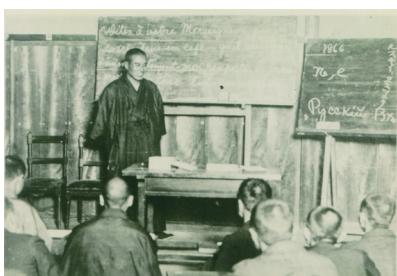
な学問を学ぶ自由大学に共鳴する動きは、上田自由大学が誕生した翌年からすでに県内外で産声を上げはじめました。しかし、名称だけは新聞報道などでわかついても実態が不明な自由大学、創設年はわかつていても活動実態が不明なものなど、まだ解明できていない自由大学はいくつもあります。それも含めて、県内外にどれほどの自由大学が設置されたのかみてみましょう。

県外から見ると、1922年に新潟県魚沼（～27）と東京に、23年には新潟県八海（～26）と福島県原の町に、25年には北海道や青森県、京都に、26年には群馬（～27）・兵庫県、新潟県ではさらに川口（1926）に誕生をみています。そのほか宮城県石巻に開講したとの情報もあるが創設年などは不明です。

魚沼自由大学の5年のほかは2年という短命でした。設立状況は、関東以北に集中し、関東以南は京都だけになつていま

す。機関雑誌『自由大学雑誌』発送者名簿（1925・1現在）で見ると、北は北海道から南は熊本までの28都道府県と植民地台湾の384名に発送されています。

県内では、1924年信南（伊那）自由大学（～29）が上田に次いで誕生しました。25年松本自由大学（4か月）が、27年には東筑摩郡に中信自由大学と須坂町青年会主催による自由大学が、



タカクラ・テル講義風景

上伊那郡下では上伊那中部・上伊那南部自由大学が、さらに下伊那郡では伊那自由大学の千代支部が、28年には竜狹支部が、29年には下条支部自由大学が開講しています。さらに30年には埴科郡連合青年団主催の自由大学の誕生が報じられました。この他に、篠ノ井・岡谷・諏訪・松原各自由大学の開講が報じられています。松原（南佐久郡松原湖畔で

開講）を除いて、これらの自由大学について知りうる史料は明らかになつていません。『自由大学雑誌』発送者名簿で見ると、16郡のうち自由大学設立の確認がない郡と雑誌購読もない郡は、木曽・南安曇・北安曇・更級・上水内・下水内・下高井各郡の7郡となっています。

（つづく）

教育は僅かに二十年や三十年の年限内に済むものでは無い。我々の生産的労働が生涯に亘つて爲さねばならぬと同じ理を以て、教育は我々の生涯に亘つて爲される大事業である。

教育により自己が無限に生長しつゝある事を除いて、生活の意義は無い、随つて教育の期間が、人生の中の或る特定の時代にのみ限られ、其の教育期間には、人はすべて農圃と工場とより離籍することは不自然であると思ふ。我々は労働と教育との結合を第一に重要なものを考へる。マルクスは、幼年者の労働には必ずしも反対せず、其れにより労働と教育とが結び付けられ得るならば、却て悦ぶ可きことであるとさへした、我々は労働しつゝ育む自由大學こそ、學校としての本義を發揮しつゝあるものと考へる。自由大學は補習教育や大學擴張教育では無い。

(注1)高倉テル『青銅時代』中央公論社 1947年所収

(注2)自由大学協会とは、「独立せる各自由大学の共通問題を共同的に処理し、其の事務の連絡と統一とを得、更に自由大学運動を全国的に波及する様努力することを以て目的」(自由大学協会規約)とした組織。参加団体は、上田自由大学、伊那自由大学(前身は「信南自由大学」)、魚沼自由大学(前身は魚沼夏季大学)・八海自由大学(いずれも新潟県)、松本自由大学の5つでした。

(注3)『自由大学雑誌』第1巻第4号 自由大学協会1925年

(注4)猪坂直一「自由大学と金井正氏」(『上田市立図書館報』14 1964.6.20)

あとがき

昨秋、須坂で開かれた内山節哲学講座で、「関係格差」という言葉を知った。デジタル格差や情報格差は耳慣れているが、関係格差は初めて聞く言葉だった。人や物と良好な関係を築いている場合と築いていない場合では日常生活に差が出るというもの。都会では特に顕著だという説明があった。コロナ禍で孤立しがちな昨今、大いに領ける意味合いだ。

寒さが厳しかった今年の冬、通りを歩く人の姿はほとんどなく、行き交うのは車ばかり。コロナ自粛と冬ごもりのダブルパンチで、人との接触は極端に少なくなる。私の場合も話し相手は連れ合いのみで、変り栄えしない会話をぼそぼそ。

寒さが緩んだある日、戸外で急に人の姿が多くなる。ウォーキングをする人、果樹の剪定をする人など。つられて散歩に出ると久しぶりに知り合いに出会い、しばし立ち話。たったこれだけのことだったが、寒さで凝り固まった身体と心がほぐれるのを実感した。

150坪の畑で野菜を育てているが、人通りの多い道路沿い10mほどに、春はコムギセンノウ、秋はコスモスを育てている。満開の時期、農作業をしていると通りがかりの人が声をかけてくれ、「何という花?」「種から育てたの?」など話が弾む。また、畑で採れ過ぎた野菜をあげたりもらったりは日常茶飯事。野菜の受け渡しとともに、たわいない言葉を交わす。ささいなことだが気持ちは和む。

通りすがりの人との触れ合い、知り合いとの世間話、このようなことが関係格差緩和につながるのではないだろうか。 (文)



満開のコムギセンノウ

環 千曲川地域の人と文化を紡ぐ
第46号 桜月夜 2022年4月発行
NPO 法人上田図書館俱楽部 <https://ueda.zuku.jp/>
電話 /FAX 0268-25-3115 info@zuku.jp
(上田情報ライブラリー委託事業)

表紙及び文中の写真・絵は無断使用を禁じます。

環スタッフ：

伊藤文子 海野 郁 西入幸代
宮下明彦 望月聰子 矢幡正夫



N P O 法人上田図書館俱楽部は、図書館との協働による学習活動や情報サービス活動、文化活動などを行っています。また図書館関連業務を上田市から受託して、市民参加による幅広い図書館サービスを行い、地域文化の発展に寄与することを目的としています。電子ジャーナル「環」も受託事業の一つとして上田図書館俱楽部が発行しており、千曲川地域の文化を通して人と人、人と地域をリンクのように結び、文化とコミュニケーションの環を広げていくことを理念に掲げています。